

日本の「ちえ」で 途上国の森林減少を止め SDGsに貢献するには

アフリカと南米の森林を守るギターとナッツプロテイン食品の開発



2022年2月28日 | 14:00~16:00 オンライン(ZOOMウェビナー)参加無料

参加申込:<u>オンライン申込</u>(クリックで外部サイトに移動します)

主催:公益財団法人 国際緑化推進センター

後援:独立行政法人 国際協力機構 (JICA)

協力:森から世界を変えるプラットフォーム

問い合わせ:国際緑化推進センター(担当:山本)

TEL:03-5689-3450 MAIL:asako@jifpro.or.jp









日本の「ちえ」で 途上国の森林減少を止め SDGsに貢献するには

アフリカと南米の森林を守るギターと ナッツプロテイン食品の開発



開催趣旨

SDGsや気候変動対策の観点から、世界的に森林の重要性に注目が集まっています。昨年開催されたCOP26では、森林・土地利用に関するグラスゴー・リーダーズ宣言が採択されましたが、このなかで2030年までに森林減少を食い止めることが謳われています。こうしたグローバルな目標を達成するには、宣言の中でも触れられている通り、持続的な森林経営を実現するための森林の経済的価値と地域住民の生計向上というローカルな取り組みが不可欠です。

本セミナーでは、まず早稲田大学の井上真教授の基調講演により、グローバルな価値観とローカルの利益のバランスについて解説していただき、次に"日本のナレッジ=「ちえ(技術・知見・制度)」を途上国での森林活動に活かす"という本事業のコンセプトと事業紹介WEBサイト(ChiePro)をご紹介し、令和3年度に実証調査した2つの事例報告を行います。今年度扱った事例は、成長が早く現地で育成できるが需要が限定的である熱帯早生材を楽器材に利用する取り組みと、高たんぱくながら十分に有効活用されていないナッツオイルの絞り粕を食品として利用する取り組みです。

基調講演

「途上国森林ナレッジ活用促進事業」が有するグローバルな価値を確認し、2つの事例報告に対してコメントをおこないます。そのうえで、一般論として演者が概念化した「持続的利用の三類型」について解説し、合理的政策の選択肢を検討する必要性を示します。そして、「文化コモンズ」に関する拡散・開放化と、知的財産法等による所有・囲い込みの関係を解説します。在来・地域知の取り扱いと利益還元は、所有(企業活動の活性化)と拡散(開放化)の微妙なバランスの上に成り立っているのです。

主催者挨拶

太田誠一(国際緑化推進センター理事長)

林野庁挨拶

山崎敬嗣(林野庁 計画課 海外林業協力室長)

基調講演

ローカルな取り組みのグローバルな価値付けと留意点

井上真(早稲田大学教授/東京大学名誉教授)

事業概要・ChieProのご紹介

国際緑化推進センター

事例報告と専門家による講評

①タンザニアの熱帯早生樹をギター材に利用する試み 報告: 仲井一夫 (ヤマハ井ゴ会社)

報告:仲井一志(ヤマハ株式会社) 講評:杉山淳司(京都大学大学院教授)

②ペルーのサチャインチ(ナッツ)副産物の流通を促進する試み 報告:門司崇宏(株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル)

講評:竹山恵美子(昭和女子大学教授)

質疑応答

基調講演井上 真

早稲田大学 人間科学学術院教授、 東京大学、誉教授

農学博士 (東京大学)



専門は環境社会学、森林ガバナンス論、 東南アジア地域研究

